

## ボランティア活動が終わったら



### ①活動を振り返りましょう

次の活動へとつなげるために、ボランティアの方と活動内容の成果や課題、改善点などについて、話し合しましょう。また先生方の共通資料とするために、話し合いの記録を残しましょう。

### ②ボランティアを学校の宝に！

子どもたちのために進んで来てくれるボランティアの人たちをいつまでも声をかけ合える支援者として、学校の“人財”としましょう。そのために、ボランティアの方々をボランティアリストなどに登録させてもらえるようお願いしましょう。

子どもたちの礼状や感想文集などを送付したり、学習発表会や公開授業などの学校行事に招待することは、ボランティアとの関係づくりにとっても役立ちます。

**学校業務を向上させ、スリム化を図るためには、ボランティアによる学校支援は欠かせません。まずは、できるところからボランティアの力を借りてみてはどうでしょうか。**

学校がボランティアを依頼しようとするとき、なかなかうまく行かないことがあります。その原因の一つに、学校は自分たちの仕事を地域ボランティアに押しつけるのではないかという誤解があります。

次の式を見てください。

ア)  $10 - 2 + 2 = 10$       イ)  $10 + 2 = 12$

まず、ア)の式は、現在の学校業務の量を「10」としたとき、教職員が「-2」の仕事を手を抜き、その分をカバーするために「+2」の仕事をボランティアに依頼するという考え方です。これはボランティア活動に対する地域の方々の誤解を現わしています。

そこで、イ)のように、現在の学校の業務にボランティアが「+2」の支援を行うことによって、学校は、「12」の業務をこなすことができるようになることを説明すれば、地域の方々は、ボランティア活動を理解してくれ、支援を申し出てくるようになります。

また、学校の業務は肥大化しつつあると言われます。そこで、学校支援ボランティアの協力を得れば、学校の肥大化を止め、スリム化を図るよう工夫することが課題になります。ドリルのマル付けや個別指導補助、郊外パトロール、図書室業務補助などは学校のスリム化を図る典型的な活動例になります。

学校の外部の人が入ることに抵抗を感じる教職員は少なくありません。しかし、学校業務を向上させ、スリム化を図るためには、ボランティアによる学校支援は欠かせなくなります。まずは、できるところからボランティアの力を借りてみてはいかがでしょうか。

